

令和6年度

# 研究集録

---

川越市教育委員会委嘱学校研究  
川越市教育委員会指定学校研究



川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会



## あ い さ つ

川越市教育委員会教育長

新保 正俊

令和6年度学校研究の成果を、ここに「研究集録」として刊行することになりました。川越市教育委員会委嘱学校研究校及び指定学校研究校が、全職員の協力のもと真摯に研究に取り組まれたことに、心から敬意と謝意を表します。

さて、急激に変化する時代の中で、今、学校教育に求められているのは、子どもたち一人ひとりが自分のよさや可能性を認識し、多様な他者と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育むことです。そのような中、本市では、「志を高くもち、自ら学び考え、行動する子ども」を目標に掲げ、子どもたち一人ひとりの志や意欲、自己肯定感を高め、子どもたちが将来、よりよい社会や人生を自ら切り拓いていくことのできる力を育成するため、「川越市小・中学生学力向上プラン」を策定し、学びの本質を具現した「川越授業スタンダード」を活用した授業づくりを推進しています。

各研究校におかれましては、自校の実態や課題を的確に把握した上で研究主題を設定し、目指す児童像の実現に向け、様々な手立てを講じ、教育活動をより深化・充実させる実践を重ねてこられました。各学校の研究成果は、子どもたちが自ら課題を設定し主体的に課題解決を図る姿、自分の考えを自信をもって友達へ伝える姿、友達との関わり合いの中で学ぶ楽しさを味わい生き生きと活動に取り組む姿など、子どもたちのよりよい変容となって表れております。特に、委嘱学校研究2年次の学校につきましては、学校の特色を生かした研究の成果を発表され、多くの示唆を与えていただきました。

各学校におかれましては、個々の学校の状況に応じて、教育活動をより活性化するための具体的な手立てとして、本集録にまとめられた研究内容や成果を積極的に活用されることを期待しております。また、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」という視点に基づいて、ICTを効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することで、各教科等において育成すべき資質・能力を確実に育んでいただきたいと思います。

結びに、研究に携わってこられた各学校及び地域・保護者の皆様の御尽力と、御指導いただいた関係各位に改めて感謝申し上げます。

# 目次

## 【委嘱学校研究〈2年次〉】

- 川越第一小学校  
「自信をもって発信できる児童の育成」・・・・・・・・・・ 1  
～他者との対話を通して～
- 川越小学校  
「豊かなかかわり合いの中で、今と未来にいきる」・・・・・・・・ 5  
～自分が好き、ひとが好き、運動が好き～
- 霞ヶ関西小学校  
「新時代に対応し、未来を創造できる児童の育成」・・・・・・・・ 9  
～進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～

## 【委嘱学校研究〈1年次〉】

- 中央小学校  
「一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の育成」・・・・・・・・ 13  
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～
- 芳野小学校  
「進んで思いを伝え合い、協働する芳野っ子の育成」・・・・・・・・ 17  
～自他のよさを認め合い、高め合える学級活動の実践を通して～
- 寺尾小学校  
「学習意欲を高め、自分の考えを表現できる児童の育成」・・・・ 21  
～児童の発達段階や実態に応じた算数科指導の工夫～

## 【指定学校研究】

大東東小学校・大東中学校

「GIGA スクール環境下における

川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善」・・・ 25

霞ヶ関東小学校・霞ヶ関東中学校

「小中連携 9 年間を見通し、

生活・総合的な学習の時間を軸にした教科横断的な実践について 」

ふるさと学習ランドデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

令和 6 年度研究集録



川越市マスコットキャラクター ときも

## 「自信をもって発信できる児童の育成」 ～他者との対話を通して～

川越市立川越第一小学校

### 研究のポイント

- 思考力・判断力・表現力を軸に教科を横断的につないだカリキュラム・マネジメント
- 自分の表現方法で伝えるための思考ツールの活用
- 児童や学級の実態を把握するための対話力構造化表の活用
- 自信をもって発信するための10の重点の設定
- 学びを育てる言語環境の整備
- 一小スタンダードと川越市小・中学生学力向上プランを軸にした指導
- ICTの効果的な活用（電子黒板・Chromebook等）

### 1 研究の概要

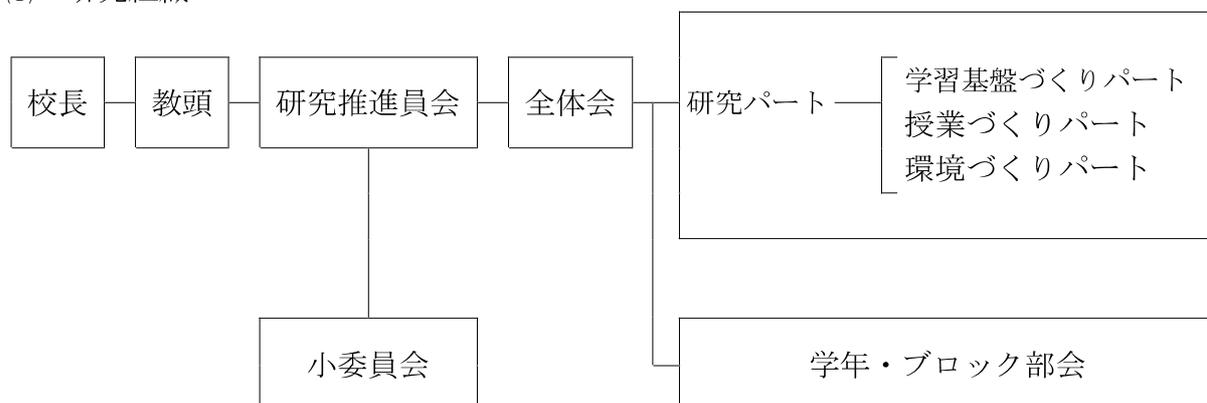
#### (1) 研究のねらい

令和5・6年度の2年間、川越市教育委員会、川越市教育研究会、令和6年度から埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会の委嘱を受け、対話を通して、多くの人に目的をもって主体的に伝えることができるように支援し、自信をもって発信できる児童を育成することとした。

#### (2) 研究主題設定の理由

本校の教育目標は「四つのだいの教育」である。「四つのだいの」とは、「いのちをだいに」「人をだいに」「心をだいに」「ものをだいに」であり、日々、この目標を意識して教育活動を行っている。そして、その教育目標の達成状況を測るために、『四つのだいの』アンケート』を毎学期行っている。その項目で「進んで発表していますか」について課題をもっている児童が多く見られた。さらに、自分の考えをもつことや、友達の考えと比べて、自分の考えをよりよいものにすることはだいぶできている反面、相手にわかりやすく伝えることが、まだできていない児童が多いという実態がつかめた。また、教師の目から見ても日頃の授業の様子、生活の様子から、話す・発表する・伝える・表現する等に課題があると考えた。これは、自信をもって発信する力が弱いことが原因ではないかと考えた。そこで、上記の研究主題・サブテーマを設定し、自信をもって発信する力は、他者との対話を通して育てることが重要であると考え、そのための方策について研究をしていくことにした。

#### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

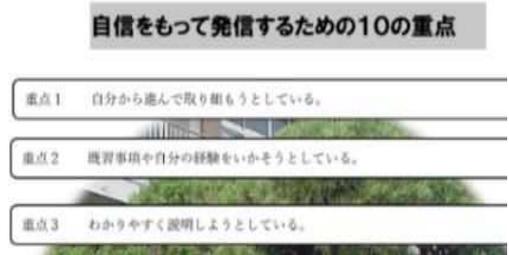
上記の主題を受け、目指す児童像を「対話を通して多くの人に目的をもって主体的に伝えることができる児童」と設定した。また、本校では「対話」を「課題に対して、お互いの意見の違いを理解して質問などを通して話を深めていくこと」と捉えた。そして、達成のために「①自分の考えをもつ」「②発信するための自分の表現方法を選ぶ」「③お互いが発信し合うための学び合いの確保」の三つを柱として、それぞれに低・中・高学年ではどのような力をつければよいのかを考え、系統性をもたせた。ここから具体的な手立てを考え、取り組んだ。

## 3 実践事例

### (1) 授業作りに向けた手立て

#### ① 自信をもって発信するための10の重点

発信する授業を具体化し、「自信をもって発信する」を工夫改善するため、川越第一小の『自信をもって発信するための10の重点』を設定し、効果的なはたらきかけをした。



#### ② 対話力構造化表

対話に必要な要素を「考える力」「伝える力」「受け取る力」「対話の力」の四つに分類し、それぞれの児童の具体的な姿を、六つのステージに構造化した。

児童の具体的な姿を明記することで、担任が対話を進めていく上での児童一人一人のステージやクラス全体のステージを認識しやすくなった。

対話のステージ	考える力	伝える力	受け取る力	対話の力
5 共創型	様々な意見や感想を分類・整理することができる。考えの違いを活かして、新しい考えや問い・課題を見つけることができる。	自分の話し方の効果や相手の受け取り方を確かめながら話している。	相手の意図や考えを理解し、自分の考えとつながりながら聞いている。	全員が当事者意識をもって対話できる。お互いの考えの違いを生かして、新しい考えを生み出そうとしている。
4 受容・拡張型	自分の考えと相手の相違点に気づいている。	自分の考えをその場にふさわしい話し方で相手に伝えている。	相手の話に興味を持ち、応答しながら正確に聞き取っている。	主体的・受容的な雰囲気の中で対話ができる。様々な意見を出し合って議論を広げようとする。

#### ③ 学びのあしあと

川越市小・中学生学力向上プランを基にした、「一小スタンダード」を基準に、課題とまとめ、振り返りを大切にしたい授業実践に取り組んだ。どの教科でも授業スタイルを統一することで学習につながりをもたせた。特に振り返りでは「学びのあしあと」を使って、1週間の学習活動における自分の考えや行動を振り返り、文章化することで、どのような活動がどのような学びにつながっているかといった自分自身の学びの捉え直しにつなげることができた。

#### ④ カリキュラム・マネジメント

特に重点として授業を行う单元について、カリキュラム・マネジメントの視点で教科間のつながりを考え、年間を見通した单元一覧表の中に示した。生活、総合的な学習の時間、国語科などを中心に他教科とのつながりを考え、单元一覧表にまとめることで、他教科との関連性を意識しながら児童への指導を行った。

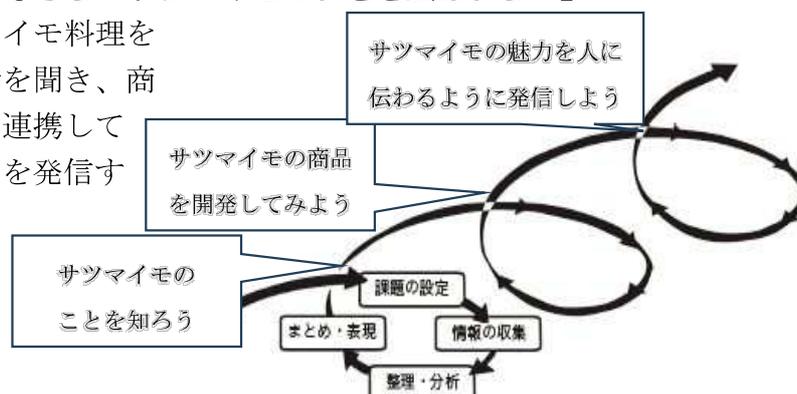
2年生 生活科『未来の自分に会いに行こう』より	
他教科とのつながり カリキュラム・マネジメント	単教科 単単元の流れ
国語「みんなで話し合おう」(9月) 経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な情報を選んで話したり、話を聴いたりして聞き、感想を持ちたりすることができる。【重点2】	小単元1「何が変わった？」(9月) 自分をふりかえり、現在の自分と比較したり、友達と比べてみる。自分が成長していることに気付くことができる。
道徳「たからものために」(家庭愛・家庭生活の充実)(10月) 家族のために働く喜びや、自分や家族の役に立つことに気づき、家族のために進んで手伝おうとする態度を養う。	小単元2「自分探検に出発」 自分の成長を整理し、思い出のアルバムを作成し、エピソードを書き加えていくことで、自分の成長にさらに気付くことができる。
国語「仲間になる言葉ありがとう伝えよう」(11月) 互いの話に関心をもち、相手の発言を聴いて楽しく話をつなぐことができる。【重点5】	小単元3「自分探検に光る自分探し」 「あはれ」で自分探しをする。友達と対話をし、活動について振り返りながら考えを整理し、自分の姿だけでなく、お世話になった人があることに気づき、感謝の気持ちをもつことができる。
道徳「だっせしたたら」(生命の尊厳)(11月)	

## (2) 各学年の授業実践

学年ごとに令和5年度・6年度ともに、10月から2月の間に「生活・総合的な学習の時間・国語・生活単元」で授業実践を行い、手立てが有効であるかについて検証を行った。また、それぞれの実践後に、令和5年度はKPT法で、令和6年度は「授業者と語ろう」という形で、授業中の児童の対話の様子を映した動画を見ながら協議を重ね、明らかになった課題の改善を図った。

### 例 4年生「サツマイモ博士になろう～サツマイモのよさを広めよう～」

サツマイモを育て、サツマイモ料理を調べる。そこで、専門家の話を聞き、商品の開発に取り組む。お店と連携して商品化し、サツマイモの魅力を発信する。



## (3) パートごとの実践

### ① 学習基盤づくりパート

#### 【実態調査アンケート】

3つの学び「進んで発表」、「話し合い」、「伝え合い」の観点を基に作成したアンケートにより、児童の実態や変容を様々な角度から分析、考察することで、学校研究の成果や課題を明らかにし、児童の課題を捉え、課題解決に向けた具体的な手立てに生かした。

#### 【学びのあしあと】

発達段階に応じてプリントや Chromebook を使い、一週間の学習活動における自分自身や自分の考え、行動を振り返り、文章で表した。



### ② 授業づくりパート

#### 【自信をもって発信できる授業デザイン】

本学習のめあてと単元における発信のめあてをつなぎ、ゴールのイメージを明確にするとともに、段階を矢印で表した。また、全体のカリキュラム・マネジメントの表から、研究授業の単元に関わるカリキュラムについて、既習の発信する力を生かせるようカリキュラムをさらに細かくデザインした。

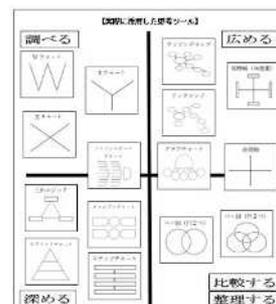
#### 【単元の手立てと重点】

目指す児童像に向けた単元全体の手立てと本時の手立て、また、『自信をもって発信するための10の重点』との関わりを指導案上にも表記し、どの教科、どの単元でも常に目指す児童像を意識して取り組んだ。

### ③ 環境づくりパート

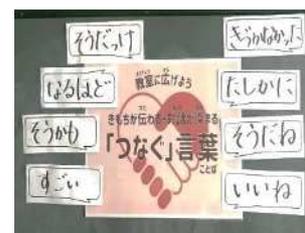
#### 【思考ツール作成・活用】

Chromebookでも思考ツールを活用できるように、各ツールを画像化したものを職員で共有し、すぐに使用できるようにした。また、月ごとに思考ツールを活用した学びの共有を図った。



#### 【つなぐ言葉の作成】

対話を承認・共感・納得などでつなげていく「つなぐ言葉」を学級ごとに考えた。児童同士の意見をつなぐことで人間関係も深め、発信しやすい環境づくりに努めた。



## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ①思考・判断・表現の既習事項を活かしながら、カリキュラム・マネジメントを行い、教科横断的なつながりを意識できた。対話に必要な要素、「考える力」「伝える力」「受け取る力」「対話の力」の4つに分類しながら、児童の具体的な姿を意識できた。また、数多く研究授業を行うことで、目指す児童像に迫ることができた。
- ②「比べる」「関係する」「分類する」「多面的に見る」力を育成する上で、思考ツールの活用が有効であった。思考ツールを使って考えることが、問題解決の場面で活かされた。
- ③外部の人材や立地を活かした活動（フィールドワーク）を通して、児童が自信をもってきた。地域の人材を活用することで、発信する範囲が、校内から校外へと広がり、双方向のコミュニケーションを取ることができた。
- ④児童が1週間の学びを振り返り、どんな力が身に付いたかを意識し、積み重ねることによって、自己肯定感の向上が見られ、新たな自分の可能性を見いだす機会にもなった。

### (2) 課題

- ①発信するための手立てである「10の重点」を見直し、全体のつながりを意識して、他教科にわたる授業を展開できるようにする。
- ②本校の立地を活かし、外部の人的・物的な資源と連携し、より社会に開かれた教育課程を求めていきたい。
- ③教師はファシリテーターに徹し、児童が授業の主役になれるような授業展開をしたい。
- ④学びの積み重ねによる児童の具体的な伸びを見取り、評価するとともに課題を確認し、個別最適な学びの支援につなげていく。

## 研究主題

# 「豊かなかかわり合いの中で、今と未来にいきる」 ～自分が好き、ひとが好き、運動が好き～

川越市立川越小学校

### 研究のポイント

- 児童の自己効力感、自己有用感、自己調整力を向上させ、自尊感情を育む体育科の授業の工夫・改善
- 人や運動との豊かな関わりをもてる授業実践
- 「調査」「生活体育」「授業」の3つのプロジェクトにおける現状分析、環境整備、学習計画等の検討

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

本研究の目的は、児童が様々な出来事に直面し、そこで起こりうる問題に対して人とのかかわり合いを通して自分の考えをもち、自分なりの生き方を考えることができる児童を育成することにある。そのために、豊かなかかわり合いの中で体育科を通して、自尊感情と技能・体力を向上させることを研究のねらいとするものである。

### (2) 研究主題設定理由

本校は、思いやりのある優しい児童が多い反面、不登校や不登校傾向の児童もおり、自尊感情の向上が課題である。このような実態から、自尊感情を向上させるため、令和2年度は算数科・体育科・道徳科・特別活動の研究を行った。令和3年度は学級経営の重要性を重く受け止め、道徳科と特別活動で研究を進めてきた。

そして令和4年度からは体育科に絞り、令和5、6年度は副題を「自分が好き、ひとが好き、運動が好き」として運動の技能や体力、自尊感情の向上を目指して研究に取り組んだ。「自分が好き」は自己効力感を高めること、「ひとが好き」は自己有用感を高めること、「運動が好き」は自己調整力を高めることと捉えている。この「自分・ひと・運動」との豊かなかかわりを重視した体育授業の工夫改善を図ることにより、児童の技能・体力及び自尊感情を高めることができると考え、本研究主題を設定した。

### (3) 研究内容

#### ① 調査プロジェクト実践

##### ア 診断的授業評価／総括的授業評価

年度当初に診断的評価、年度末に総括的評価（双方ともに同じ質問全20項目）を行い、1年間の体育科授業においての児童の変容を読み取った。年度当初から、本校の児童は、どの項目においても、肯定的な意見の児童が多く、全体のポイントが高い傾向にある。学校全体の合計点は、年度末には、5ポイント向上した。

#### 体育授業についての調査（一部抜粋）

- ◎これまでの体育の授業を思い出して、下の質問にこたえてください。あなたの考えにもっとも当てはまるものに○をつけてください。
1. 体育では、みんなが楽しく勉強できます。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
  2. 体育では、明るいあたたかい感じがします。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
  3. 体育をすると、体がじょうぶになります。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
  4. 体育では、せいっぱい運動することができます。  
(はい・どちらでもない・いいえ)
  5. 体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。  
(はい・どちらでもない・いいえ)

高橋健夫編、「新版 体育科教育学入門」、大修館書店

#### イ 授業時の形成的授業評価

Chromebook を活用し、該当単元において1時間ごとにアンケートを実施した。3時間目の授業では、説明等に時間がかかり、全体的な運動量が減少し、評価のポイントが下がってしまった。それ以降は、毎時間、同じ流れで、ゲーム（アダプテーション・ゲーム）を中心に行ったため、無駄なマネジメントを減らし運動量の確保につなげることができた。

また、単元を通して意図していた児童同士の関わりも、手立ての有効性を含め、大きくポイントを伸ばすことができた。

#### ウ 授業時の発言回数チェック

研究授業の際、授業者の言葉掛けの回数をチェックした。領域ごとに、発言例を用意し、種類ごとに分けて行った。教師の言葉掛けの回数が多いと、児童の集中を妨げる等の考えもあるが、一方で、ねらいへの意識づけ、児童の技能向上や児童同士の関わりの中で、児童自身が使える言葉を増やしていけるよう、本校では主に、『具体的肯定』と『具体的矯正』を中心に、45分間で100回以上を目指した。

#### エ 心と体の健康観察

「心と体の健康観察」を毎月（いじめアンケート実施月以外）行った。1時間目の授業の開始前に実施することで、回答が1日の出来事に左右されないよう配慮している。自由記述欄には「誰に相談したいのか」という意思表示ができるよう、【担任・養護教諭・スクールカウンセラー・その他、話したい先生の名前が書ける欄】を設けており、児童からの「聞いて欲しい」というサインを示しやすいようにしている。児童からのサインが見受けられた場合は、担任から児童へ個別に声掛けを行い、必要に応じて、養護教諭やスクールカウンセラー、関連教職員にも協力を得て対応している。

### ② 生活体育プロジェクト実践

#### ア 鉄棒キャンペーン

休み時間に運動委員の児童が技を見てスタンプを押す。技は、布団干し、つばめ、ぶたの丸焼き、こうもり、地球回り、前回り、逆上がり、膝掛け回り（後方膝掛け回り）、空中前回りの11種類で全部達成した児童には顔写真入りの認定書を渡した。

#### イ 5月の新体力テストに向けた取組

本校の課題である投力・握力の課題について家庭で取り組める内容のものをスライドにまとめた。児童にとって取り組みやすいグーパー運動、自分で握手、片足立ち、シャドーピッチング、紙鉄砲などのやり方のポイントを示し紹介した。

#### ウ マラソンカード

川越小マラソンカードに、校庭のトラックを走った周回数について色を塗った。誰がどれだけ頑張っているかが分かるように、カードは廊下などに掲示した。100周を超えた児童は、校長にマラソンカードを提出し、校長がスタンプを押した。また、新聞委員会が発行している学年向けの新聞に名前を載せた。

#### エ 外遊びキャンペーン

2月の生活目標である「寒さに負けない体をつくろう」に関連付けて、外遊びキャンペーンを実施した。どろけい、ドッチボール、バトンスローなど外遊び9種類をすべて達成した人数をクラスごとに掲示し、外遊びへの意欲を高めた。

#### オ 新体力テストの活用

新体力テストの結果を学年・男女別でランキングにした「体力テスト番付」を

作成し、結果を給食時の放送で紹介した。結果から、本校では「投力」に課題があったため運動委員で紙鉄砲を作成し、全校児童に配布することで体力向上を図った。

#### カ 夏休み・冬休みの体力貯金カード

500点を達成した全児童を放送で紹介した。また、運動委員がクラスごとの達成率を調べ上位3クラスに賞状を渡し、取組への意欲を高めた。体力貯金カードの種目は、ラジオ体操、アンテナ、ロールケーキ、ブリッジ、V字バランス、なわとびなどがあり、1・2・3学年と4・5・6学年で種目が変わっている。

#### キ プラスチック段ボールでの学習資料の掲示

表面だけでなく裏面も使えるように立体式にした。表面には、単元計画・本時のめあて・技のポイント・まとめを掲示し、裏面には、本時の流れ、メンバー表、対戦表、児童が発見したコツなどを掲示し、学習の見通しをもたせられるようにした。場所を選ばずに持ち運びできるため、集合させる場所を自由に変えることができる。風が強い日は、水を入れたペットボトルを重りにし、体育の授業で活用している。

#### ク バトンスロー

鈴をつけ、バトンが上までたどりついたら、音が鳴るようにした。低学年と高学年で距離を変えて挑戦できるようにした。また、児童がバトンスローに多く触れられるよう外遊びキャンペーンの種目に入れるなど実施方法を工夫した。

### ③ 授業プロジェクト実践

#### ア 川小体育スタンダードの作成

- (1) 集合・整列・あいさつ
- (2) 準備運動
  - ①準備運動＋領域に応じた準備運動
  - ②体力向上の運動（3分間）…3分間の持久走、または持久力の高まるもの
- (3) 場の準備
- (4) ねらい（教師）とめあて（児童）の確認
- (5) 主運動
  - ①ベーシックタイム（共通課題）
  - ②チャレンジタイム（個別課題）
- (6) 後片付け
- (7) 整理運動
- (8) 本時のまとめ（教師）と振り返り（児童）  
評価（自己評価・相互評価・教師評価）
- (9) 体調確認・あいさつ

#### イ 体育科系統表の作成

#### ウ 体育カードの共有と精選

## 2 実践事例

### (1) 第6学年

#### ①単元名 究極プレーで勝利をつかめ

（ボール運動：アルティメット【ゴール型】）

#### ②ねらい チームの攻撃のよさや課題を仲間に伝え作戦を考えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】



(2) 特別支援学級

- ①単元名 「めがせ完全制覇！おひさま SASUKE ワールドにチャレンジしよう」  
(体づくりの運動遊び)
- ②ねらい 身体の様々なつかい方を知り、色々な運動を組み合わせることができるようにする。【知識及び技能】



(3) 第2学年

- ①単元名 みんなでせかいをぬりかえなイカ (ゲーム：ボール運び鬼【鬼遊び】)
- ②ねらい チームのすべての児童が楽しくなる遊び方について話し合うことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】



(4) 第4学年

- ①単元名 スマイルパス～最強の絆をつなごう～  
(ゲーム：ミニサッカー【ゴール型ゲーム】)
- ②ねらい チームのよさを生かし、作戦を考えることができるようにする。  
【思考力、判断力、表現力等】



3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・令和2年度から積み上げてきた自尊感情を向上させることについては、「自尊感情に関する調査」や「心と体の健康観察」の結果から毎年向上してきている。
- ・体育科の技能と体力については、1時間内の運動量の確保や授業外での体育的活動の推進等で向上してきている。
- ・教師の体育科授業に対する意識が高まり、授業の質的向上が図られてきた。
- ・教材教具を充実させたことで、学習内容のバリエーションが広がった。

(2) 課題

- ・ボール、ゲーム運動に研究実践が集中してしまい、今後、他領域での検証が求められる。
- ・今回取り組んだ新しい運動については、その有効性について今後継続して検証し、年間指導計画の見直しが必要である。

# 「新時代に対応し、未来を創造できる児童の育成」 ～進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～

川越市立霞ヶ関西小学校

## — 研究のポイント —

- 社会の変化に対応し、様々な他者とともに新たな価値観をつくりあげられる児童を育成する
- 教師が学習のファシリテーターとなり、児童の主体的な学びを促進させる
- 協働的な学びを通して、伝え合うことのよさが分かる学習を行う
- 児童、教師共に学ぶ環境を整え、持続可能な学校研究を実現する

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

先行き不透明な現代において、社会に主体的に関わり、多様な人々との交流を通じて、新たな価値を創造し、未来を切り拓くことのできる児童を育成することは、必要不可欠である。研究の目的を「子供たちが一生涯学び続け、社会の激しい変化に対応し、豊かな人生を歩むことができるようにする」こととして、「子供たちの将来を見据えた本質的な幸せを考える」研究に取り組むことにした。

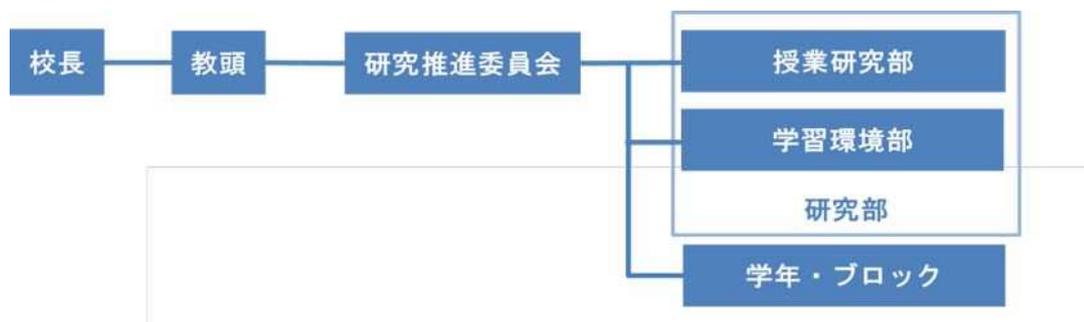
### (2) 研究主題設定理由

本校は昨年度より、「新時代に対応し、未来を創造できる児童の育成～進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～」を研究主題に、国語科における文章を読解する力と自分の考えを伝える力の向上に重点を置いた学校研究に取り組んだ。研究を通して、叙述に即して心情を読み取ることができるようになり、話し合いの仕方のスキルを身に付けた児童が増えるなど、成果を挙げることができた。

その一方で、他者と考えを伝え合うことで自分の考えを深めることができる児童は限られていた。

このような実態を踏まえ、今年度は、「他者と協働し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる児童」の育成を目指し、研究の柱を「①児童主体の課題設定」「②学び合いの充実」「③学習環境の整備」とし、研究を進めることとした。

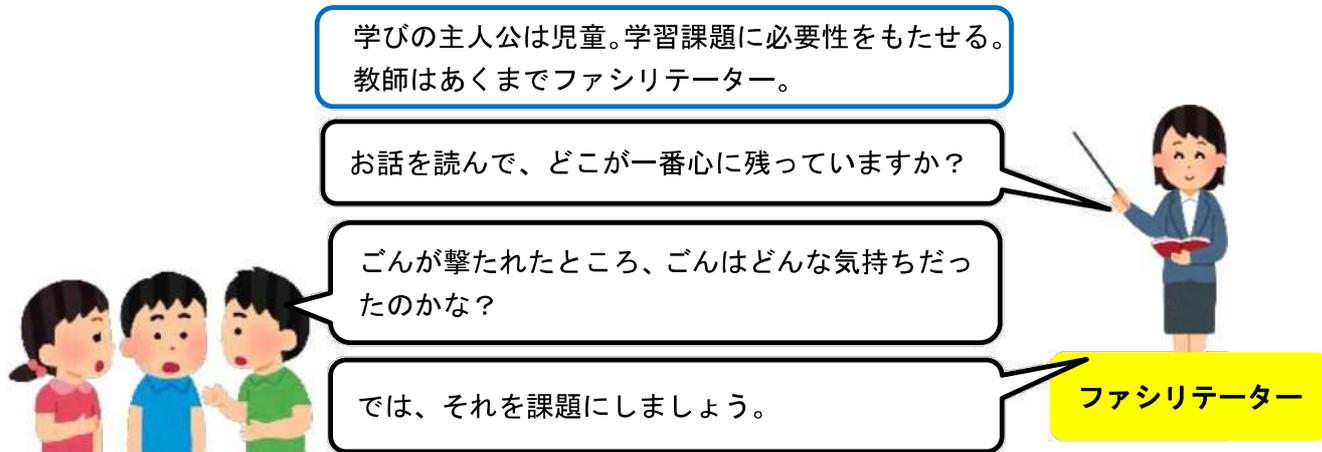
### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

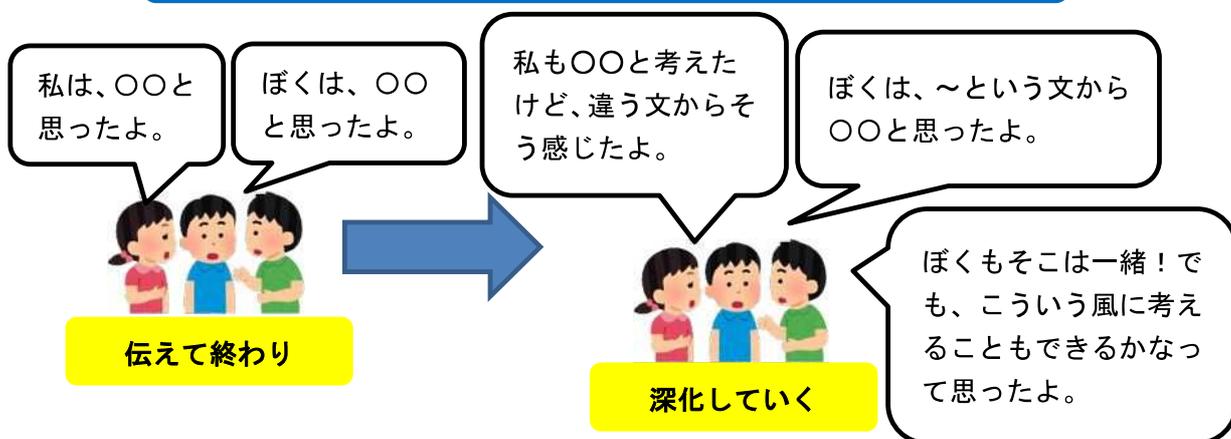
### (1) 研究の仮説の設定

【仮説1】児童主体の課題に沿って学習を進めれば、児童は進んで考えを生み出すだろう。



【仮説2】自分の考えをもち伝え合うことの良さが分かる学習を進めれば、児童は他者の意見を尊重し、自分の考えや思いを適切に表現できるようになるだろう。

自分の考えにはない考えから学び、自身の成長につなげる学び合い。



【仮説3】児童、教師共に学ぶ環境を整えれば、自分の考えを広げ、深めることに繋がるだろう。

児童が環境に浸る。教師にとっても学ぶ環境を整える。



### 3 実践事例

[授業研究部]

#### 授業の流れ「霞西スタイル」の作成

①初発の感想を書くときに、課題設定につながる視点を提示する。

〈どの教材でも使える視点〉

- ・読み終わった後、あなたはどんな気持ちになりましたか。
- ・お話を読んで、どこが一番心に残っていますか。
- ・疑問に思ったことは何ですか。
- ・登場人物の〇〇はどんな人ですか。



②初発の感想を集約し、児童と共に場面ごとの課題設定を行う。

③場面ごとに読み深める。

叙述にサイドラインを引き、読み取ったことを付箋に書く。  
それを基に心情を考える。



#### 伝え合いのポイント

①話し合いの目的の明確化

単元ごとに話し合いの目的を児童と共有し、目的意識をもって参加できるようにした。

②発達段階に応じた伝え合いのポイント

話し合いの経験が少ない低学年向けに話し合いの第一歩として「つたえ合いのポイント」を作成した。伝える人は、考えた登場人物の気持ちと理由をセットで話すことを基本形とした。自由な話し合いにつなげるため、友達の発表を聞く際に、聞く人は相違点を探したり、質問をしたりできるようにした。



#### 考えの可視化

①人物相関図の活用

人物相関図を活用し、登場人物の関係を明確にすることで、自分の考えを可視化し、目的意識をもって話し合いに参加できるようにした。

②心情サークルの活用

心情サークルを活用し、登場人物の心情の変化を可視化することで自分の考えを相手にわかりやすく説明できるようにした。



#### 読書環境の充実、語彙力の育成

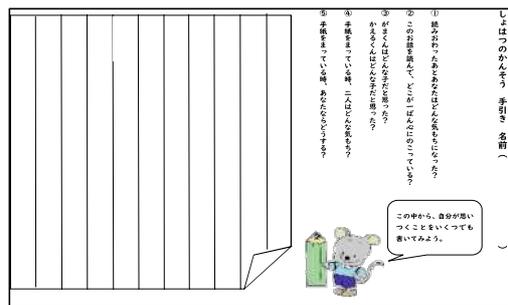
同じ作者や同じジャンルの作品を読むことで、読書の幅を広げたり友達と感想を伝え合う楽しさを味わえたりできるようにした。「気持ちを表す言葉」を作成し、教室に掲示したり、国語ノートに貼ったりすることで、語彙力を育成できるようにした。



[学習環境部]

### 初発の感想の手引きの作成

初発の感想を書くための手引きを、学年や教材に応じて作成し活用した。



### 話し合いの心得

話型を使った話し合い活動ができるようになったので、話型をなくしてより自由に意見交流ができるようにしたいと考え、話し合いの心得を作成した。

- ① ゴールを確認する
  - ・何かを決める
  - ・情報共有する
  - ・アイデアを出す☆答えは決まっていない、作っていく
- ② 全員が話す（話せる雰囲気を作る）
  - ・全員が話す機会を作る
  - ・時間を決める
- ③ 謙虚であるが遠慮はしない
  - ・相手の意見を受け入れる
  - ・反対意見も言う
  - ・考えを比べる☆わかるまで聞く



### 音読タイム

読むことの基本である音読のスキルを高めるために「音読タイム」に取り組んだ。各クラスで音読タイムに取り組みやすいように「音読タイムの進め方」「音読のひけつ」を作成した。

#### 音読のひけつ

- ①しせいよく読む
- ②鼻からいきをすって読む
- ③大きなこえで、はっきりと読む
- ④ゆっくり読む
- ⑤まとまりごとに読む
- ⑥正しく読む



## 4 研究の成果 (○) と課題 (●)

### [成果]

- 自分たちで考えた課題に取り組むことで、主体的に学習に取り組む児童が増えた。
- 話し合いの時間を十分に確保したり、話型に頼らない話し合いをしたりすることで、話し合う力が身に付いた。
- 付箋を活用し自分の考えをもつことで、広く深い話し合いができた。
- 他教科でも話し合いのスタイルを生かせるようになった。

### [課題]

- 文学的文章において取り組んできた手立てを説明的文章においても活用できるようさらに研究を深めていきたい。
- 準備物の負担を減らすためにICTの活用が必要である。

## 「一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の育成」

### ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

川越市立中央小学校

#### 研究のポイント

- 子どもが主体的に学ぶことができるようにする
- これまでの教師の指導を子どもの学びに転換する
- 個に応じた指導⇒個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 課題解決に向けて進んで考え、一人一人の学びを深める
- 他者とともに解決方法を考えたり、新たな学びを作ったりする

#### 1 研究の概要

##### (1) 研究のねらい

本校の児童は、学力は高い児童が多いが、二極化している。また、他者とのコミュニケーションや関わり方が苦手な児童や自己肯定感が低い児童が見受けられる。しかし、学習の仕方など、その方法がわかると自信をもって意欲的に取り組める児童が多い。そこで自他のよさや可能性を大切に、多様な他者と協働し、未来を創り出す児童を育成することをねらいとした。

##### (2) 研究主題設定の理由

本校の目指す学校像は、「児童一人一人のよさを活かし、その子その子の花をさかせる中央小学校」である。その実現のため、研究主題を「一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～」とした。一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の姿とは、

- ①自分にあった学習方法を知り、自信をもって主体的に考え、学ぶことができる姿。
- ②多様な他者と協働して課題解決に取り組み、互いに高め合う姿。

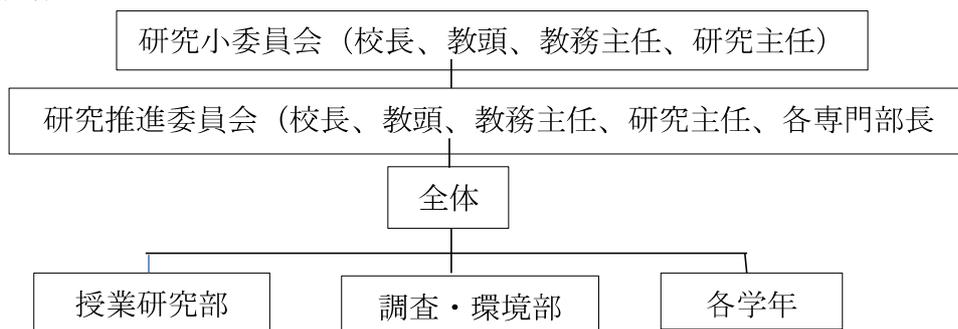
と捉え、研究仮説を、

- ア「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させれば、課題解決に向けて進んで考え、一人一人の学びを深めることができるであろう。」
- イ「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させれば、他者とともに解決方法を考えたり、新たな学びを創ったりすることができるであろう。」

とした。

仮説に迫る手立てとして、指導の個別化と学習の個性化の工夫、学び合い活動の工夫について研究を進めていく。また、教科を絞り、それぞれの教科の特性を生かして研究主題に迫っていくこととし、教科は国語科・算数科・体育科の3教科とした。

##### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

### 《研究仮説》

- (1) 「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させれば、課題解決に向けて進んで考え、一人一人の学びを深めることができるであろう。」  
⇒一人一人の花を咲かせる。

手立て

- ①中央小スタンダードを意識した学習の流れ
  - ②学習方法や場を選ぶ環境づくり
  - ③見通しをもたせる工夫
  - ④一人一人がめあてをもてる工夫
  - ⑤ICTの活用
- (2) 「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させれば、他者ととも解決方法を考えたり、新たな学びを作ったりすることができるであろう。」  
⇒未来を創る

手立て

- ①学び合いの視点の視覚化
  - ②話し合い活動の工夫
  - ③過程の視覚化
  - ④話し合い活動を充実させる教師のファシリテートの工夫
- (3) 各研究部による研究

- ① 授業研究部 (国語科 算数科 体育科)
  - ・中央小スタンダードのブラッシュアップ
  - ・教科の特性に応じた授業展開、他の教科への応用
  - ・ICTの活用
  - ・話し合い活動の工夫
  - ・家庭学習との関わり
- ② 調査・研究部
  - 環境プロジェクト
    - ・中央小ユニバーサルデザインのブラッシュアップ
    - ・学級経営(学級活動・道徳の授業の充実)  
自分の考えをもつ  
何でも話し合える雰囲気 互いを認め、共に伸びる  
気づき、考え、実行する (JRC活動)  
→他者と共に考える、他者から学ぶ  
→自分で考え、判断し、実行する
    - ・学びの環境づくり 教室環境(掲示物、具体物) ICTの活用
    - ・カリキュラム・マネジメント  
他教科との関連、教科横断的な学習
  - 調査プロジェクト
    - ・児童アンケートの作成・実施・分析
    - ・埼玉県学力学習状況調査の分析  
児童の実態に応じた学びの構築

- ・学力向上に向けて
  - 上位層の学び 発展的に考える（学び合い、さらに自分で深め、広げる）
  - 中間層の学び 考える力（他者の考えを知り、よりよく考える）
  - 下位層の学び 確実に考える（自分に合った方法で考える）

### 3 実践事例

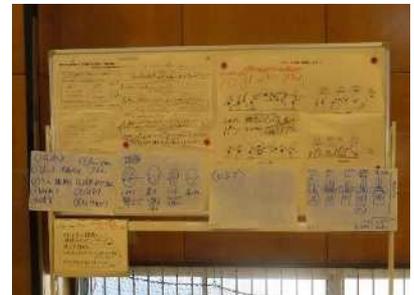
#### (1) 第3学年 算数科「数の表し方やしくみを調べよう」

- ① 指導の個別化と学習の個性化の工夫
  - ア 中央小スタンダードを意識した授業
    - ・めあてから振り返りまでの統一した学習の流れ
  - イ 既習事項や学びのあしあとの視覚化
    - ・算数コーナーの活用
    - ・ICTでの板書と振り返り
  - ウ 学習方法や場を選ぶ環境づくり（コース別学習）
    - ・学習方法の視覚化
    - ・コースの垣根を越えた学び合い
- ② 学び合い活動の工夫
  - ア 過程の視覚化
    - ・話型の整備
    - ・考えを深める視点の視覚化
  - イ 話し合い活動を充実させる教師のファシリテートの工夫
    - ・練り上げる段階や型、発問例の用意



#### (2) 第4学年 体育科「跳び箱運動」

- ① 指導の個別化と学習の個性化の工夫
  - ア 中央小スタンダードを意識した授業
    - ・めあてから振り返りまでの統一した学習の流れ
  - イ 指導の個別化
    - ・技のつまずきに応じた個別の指導
    - ・見通しをもって学習できる学習過程の工夫
  - ウ 学習の個性化
    - ・児童それぞれの課題に応じて毎時間のめあての設定と場の選択
    - ・自分が技を行っている動画を視聴（ICTを活用）し、自らの課題や出来栄への把握
    - ・大きな開脚跳び、大きな台上前転に加え、発展技として抱え込み跳びや首はね跳びを用意
- ② 学び合い活動の工夫
  - ア 技のコツやポイントの視覚化
    - ・学び合うときの着目ポイント（ポイントの見方）
  - イ 学び合いの形態の工夫
    - ・「見る」「待つ」「行う」のローテーションの工夫
    - ・「For you」タイムの設定（異質集団での学び合い）



(3) 第5学年 国語科「大造じいさんとガン」

① 指導の個別化と学習の個性化の工夫

ア 中央小スタンダードを意識した授業

- ・めあてから振り返りまでの統一した学習の流れ

イ 指導の個別化

- ・個別追及学習における「個別の追及の視点」の明確化
- ・方法選択学習における「個に応じたワークシート」の活用

ウ 学習の個性化

- ・課題選択学習における観点の整理
- ・個人の考えが反映された学習のまとめ

エ 教室環境の整備

- ・関連図書の設置
- ・掲示物の充実

② 学び合い活動の工夫

ア 話し合いの観点の視覚化

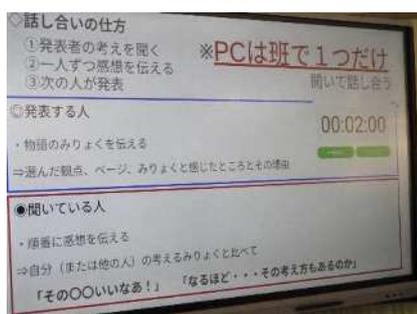
- ・必然的な話し合いを生み出す観点
- ・思考ツール（ICT）の活用
- ・構造的な板書による思考の整理

イ 話し合いの形態の工夫

- ・意図的なグループの形成

ウ 学びを深める教師のファシリテート

- ・叙述から話し合いの共通点や相違点から引き出すための発問



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① ICTの効果的な活用により、個別最適な学び・協働的な学びの実現につなげることができた。
- ②国語科、算数科、体育科での研究を通し、それぞれの教科の特性を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの一体化について教職員の理解が進んだ。

(2) 課題

- ①学校全体として研究の方向性について改めて共通理解をする。
- ②児童が主体的に学ぶために（ア）学習課題の明確化（イ）解決の見通し（ウ）自力解決の時間の確保（エ）学び合い（オ）振り返り等を意識して継続的に取り組む。
- ③個別最適な学びにはICTの活用が不可欠であることから、効果的な活用方法を模索していく。
- ④一人一人のよさや可能性を活かした、より深い学びにつなげる協働的な学びについて研究していく。

# 「進んで思いを伝え合い、協働する芳野っ子の育成」 ～自他のよさを認め合い、高め合える学級活動の実践を通して～

川越市立芳野小学校

## 研究のポイント

- 児童が自信をもって話し合える学級会グッズや事前の活動の工夫
- 自他のよさが実感できる振り返りの視点の設定や活用
- 児童の思いや願いを生かした合意形成や実践に向けた教師の助言や支援の在り方についての検討

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

- ① 進んで思いや願いを伝え合い、実践したりしようとする態度を養う。
  - ア 児童が自信をもって話し合うための環境整備をする。
  - イ 教師の指導、支援の工夫をする。
- ② 児童が自他のよさを実感できるようにする。
  - ア 自他のよさに気付けるような視点を示して振り返りをする。
  - イ 話合いや実践を通して教師が児童のよさや努力している様子を紹介したり、共有したりする。
- ③ 友達や自分の思い、願いを大切に、実現しようとする意欲を高める。
  - ア 提案理由やくらべ合う視点を明確化する。
  - イ 準備や話合い、実践における教師の助言、支援の在り方を明らかにする。

### (2) 研究主題設定理由

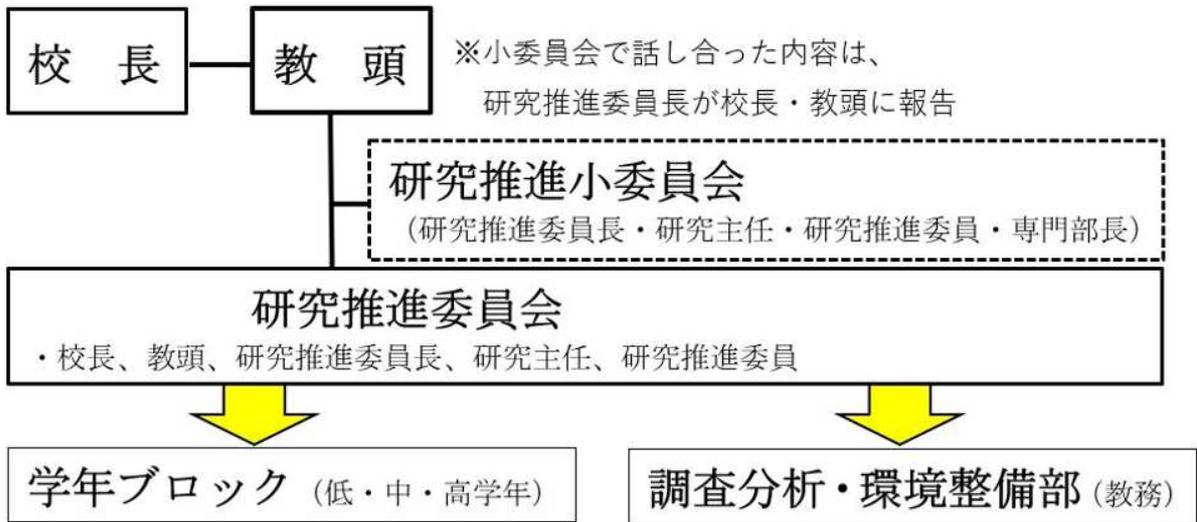
学級活動（1）の特質である「自発的・自治的活動」は、児童が自ら課題等を見だし、その解決方法・取扱い方法などについての合意形成を図り、協力して目標を達成していくものである。自分たちの手で、楽しく、豊かな学級生活をつくる活動は、児童にとって、やりがいや喜び、満足感を味わえる機会となるもので、学校生活の魅力であり、極めて重要な経験であると考えている。

本校は、「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が低かったことを受け、令和5年度から「自他のよさを認め、実感できる学級活動の実践」の研究主題を設定し、特別活動の研究と実践に取り組み始めた。成果として、前出の回答についての肯定的回答の割合は増え、良好な人間関係や自己肯定感の向上が見られた。一方で、児童の自主的・実践的な活動や教師の助言や指導の在り方に課題が残った。

前年度の課題から、児童が自ら思いや願いを表現し、実現しようとする意欲を高めるとともに、それを支える教師の果たす役割を明らかにすることに重点を置いた研究が必要であると考えた。

そこで、令和6年度は研究主題を「進んで思いを伝え合い、協働する芳野っ子の育成～自他のよさを認め合い、高め合える学級活動の実践を通して～」と設定し、さらに研究を進め、実践を積み重ねることとした。

(3) 研究組織



2 研究の内容



### 3 実践事例

#### (1) 学級活動の授業実践

1年西組「1にしかるたをつくろう」

2年東組「1年生に楽しんでもらえるおもちゃフェスティバルをしよう」

3年西組「ひまりんピック🌻 ～協力の花をさかせよう～ をしよう」

4年東組「2学期がんばったね会をしよう」

5年西組「みんなで笑顔！5西秋の運動会をしよう」

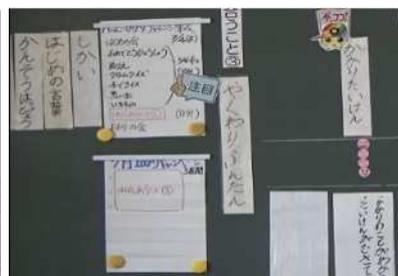
6年東組「卒業を祝う会で感謝の気持ちを伝えよう」

#### よりよく合意形成するための指導の工夫

- ・話し合いの中心が明確になるように、提案理由を視覚化する。
- ・教師も司会グループの一員として参加し、進行の手本となるように模範を示す。（低）
- ・実践の場面を意識することや、くらべ合う視点について教師が助言する。話し合いが混乱したときや話し合いの内容がそれた際に、教師が臆せず助言する。
- ・多数決での決定に偏らないよう、短冊に理由を書き、話し合うこと①の決定に生かす。
- ・教師の立ち位置を話し合いの段階によって変え、適切に支援する。

#### 話し合う内容を明確にし、児童が自信をもって話し合うための工夫

- ・イメージを共有するために、実物を提示したり、決まったことを簡単に実践したりする。
- ・話し合うことを限定し、役割分担まで話し合えるようにする。活動の条件を付け、内容の工夫を出しやすくする。

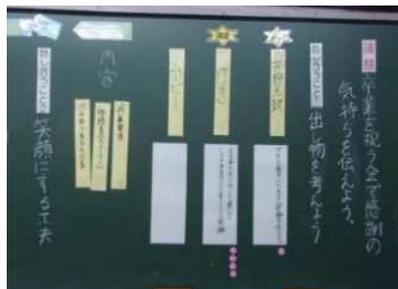


【提案理由の視覚化】

【活動の条件の提示】



【教師の支援・助言…低学年は話し合いを進めたり、意見を書いたりすることを児童と一緒にいながら支援する。】



【実物や実演によるイメージの共有化】

【理由に着目した合意形成】

(2) 環境整備

① 学級会ノートの内容の検討、修正



枠内の内容を写真で撮り、大型モニターに映して提示することで、児童が書いた学級会ノートをそのまま提示できるようになった。

【学級会ノート】

①

議題		第四 会議ノート 月 日 ( ) 校時 (高学年)			
提案理由 アオスの森と こすねば と こうなる 提案者 ( )		年 組 名 前 ( )			
話合いのめあて		私の考え			
決まっていること		話し合うこと 自分の考え (理由もしっかり書こう)			
計画 委員	司会	司会	黒板記録	黒板記録	ノート記録
話し合いの順序		気をつけること ②			
(1) 話し合いの 1. 話し合いの目的 2. 話し合いの場所 3. 話し合いの時間 4. 話し合いのめあての確認 5. 話し合いのめあての確認 6. 話し合いのめあての確認 7. 話し合いのめあての確認		話し合いのふりかえり ☆よくできた ◎できた ○少しできた △もう少し			
(2) 話し合い 柱1		① めあてを考慮して、話し合うことができた	☆ ◎ ○ △	感想	
柱2		② 互達の意見のよいところを考えながら聞くことができた	☆ ◎ ○ △		
柱3		③ 前の自分よりよくできた	☆ ◎ ○ △	③	
(3) おわりの会 1. 決まったことの確認 2. ノート記入の確認 3. 決まったこと 4. 終わりの言葉		④ 決まったことや自分がこれから何をしたらよいか分かった。 わかり、自分がこれからすること・活動のめあて	☆ ◎ ○ △		
		活動の振り返り ☆よくできた ◎できた ○少しできた △もう少し			
		① 自分の活動のめあてが達成した	☆ ◎ ○ △	感想	
		② 友達と協力し合って活動できた	☆ ◎ ○ △		
		③ 楽しく活動できた	☆ ◎ ○ △		

- ア 一連の活動が1枚で完結できるようにワンペーパーでまとめている。
- イ 「気をつけること」に話し合いの進め方を書き込み、計画委員が進行に役立てているが、全員が話し合いの進め方について共通理解することにもつながる。
- ウ 振り返りの項目に「前の自分よりよくできた」を入れ、どのようなことがよくできたかについても、書ける児童は書くように促している。人と比べるのではなく、自分の努力や成長が認められる機会になるよう、声掛けをしている。
- エ 自分の活動のめあてについて振り返る項目を設定している。自分の役割を果たせたか、努力できたか、友達と協力できたか等について振り返っている。

4 研究の成果と課題

	自分にはよいところがあると思いますか。		学習や運動などをみんなと一緒にすることは、楽しいですか。		みんなが楽しめることを考えたり、やってみたりしていますか。	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
1年	97.2%	年度末実施	100%	年度末実施	94.5%	年度末実施
2年	90%	年度末実施	97.5%	年度末実施	95%	年度末実施
3年	78.7%	79.5%	89.3%	95.4%	82.9%	86.3%
4年	92.8%	100%	98.2%	100%	91.1%	91.7%
5年	91.1%	93.6%	96.4%	93.8%	94.6%	93.8%
6年	75.5%	87%	97.9%	95.6%	85.7%	91.3%

(1) 成果

- ・自己肯定感に係る質問については肯定的回答の割合が増えている。
- ・児童や教師の学級会（準備や話し合い、実践）の進め方について理解が深まった。

(2) 課題

- ・友達と協働することや、自主的に活動に取り組むことに改善の余地がある。
- ・今年度の取組を整理し、実践の重点化、日常化を図る必要がある。

研究主題

# 「学習意欲を高め、自分の考えを表現できる児童の育成」

## ～児童の発達段階や実態に応じた算数科指導の工夫～

川越市立寺尾小学校

### 研究のポイント

- 学習意欲向上の工夫
- 自分の考えを表現し、互いの考えを活かす方法
- 実態に応じた基礎基本の定着

### 1 研究の概要

#### (1) 研究のねらい

- ・意欲的に学び、生活や学習につなげる児童の育成
- ・自分の考えを表現し、互いの考えを活かす児童の育成
- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けた児童の育成

#### (2) 研究主題設定理由

本校では、学校教育目標「自ら進んで 学ぶ子 仲よくする子 きたえる子」の実現を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。

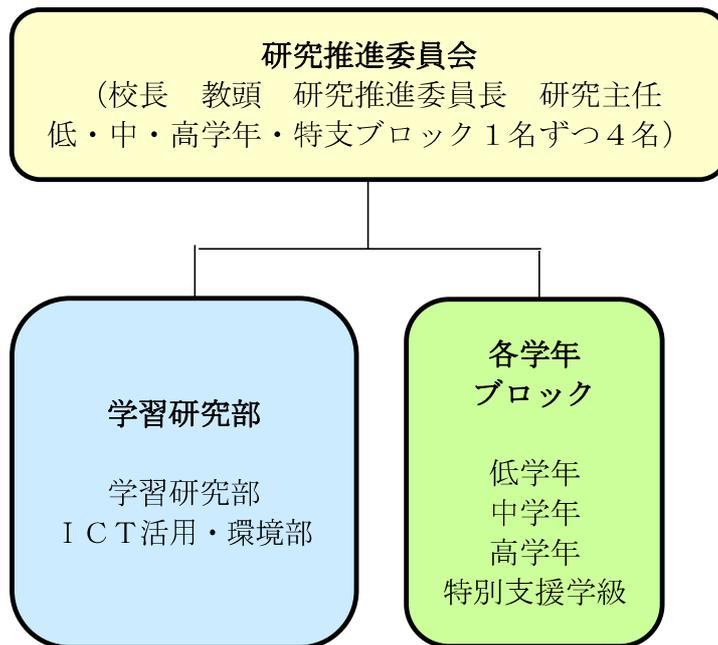
本校の児童の実態として各種学力調査や日々の授業からは次のことが挙げられる。

- ①全国学力・学習状況調査・埼玉県学力・学習状況調査・入間地区学力調査の結果より
  - ・全国、埼玉県よりも平均正答率が低い。
  - ・記述式の問題に課題が見られる学年がある。
  - ・調査問題の最後の問題まで解くことができなかつた児童が多く見られた。
  - ・児童の学習に対する意欲を向上させることが課題である。
  - ・基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られる児童もいる。
- ②日々の授業、生活より
  - ・個々の差を埋めるための、個に応じた支援が課題である。
  - ・基礎学力を向上させ、話し合い活動を充実させることが課題である。

児童の実態把握と教員の願いから、児童の学習意欲を向上させたい（意欲的に取り組める授業）という目標と基礎基本を身に付け、自分の考えをもてる児童を育てたいという目標を立てた。また、学年により児童の実態が大きく異なることから、研究主題・目指す児童像は同じでありながらも、それぞれの学年で児童の様子を考え、手立てを異なるものに行っている。

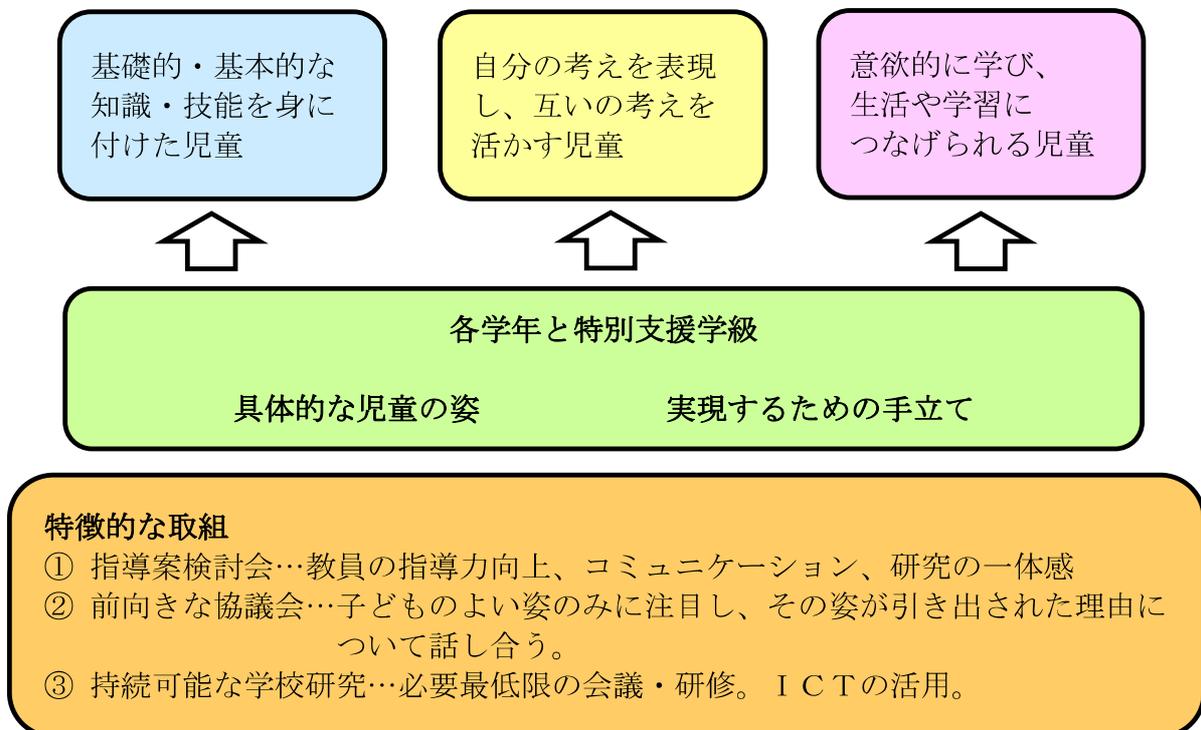
本校では、算数科の学習において、学習意欲を高める工夫を通じて基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける「個別最適な学び」と、自分の考えを表現し、互いの考えを活かす「協働的な学び」を実現することを目指して本研究主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

目指す児童像



### 3 実践事例

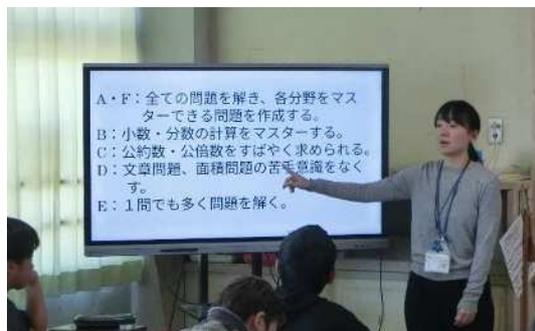
#### (1) 学習意欲向上の工夫

##### ①自己選択・決定の機会をつくる

5年生の研究授業では自分でコースを自由に選択し、グルーピングを行った。

自分自身を振り返り、苦手な内容を選択させた。友だちと一緒に解きたい児童もいれば、個人で解きたい児童もいた。

同じ課題をもった児童同士が協働的に学ぶことで意欲が向上し学習の内容を理解する様子が見られた。



##### ②導入の工夫

2年生、4年生の研究授業では導入を工夫し、ワクワクするような問題設定から児童のやりたいという思いを膨らませる取組を行った。

2年生の授業ではかけ算九九の表の未習部分をダイヤの指輪の絵で隠し、宝探しの活動の中で答えを推測させた。

4年生の授業では大きさの等しい分数のカードを用い神経衰弱を行う活動を行った。大きさの等しい分数を見分けることに必要感が生まれ児童が目を輝かせて考える様子が見られた。



##### ③他教科との関連 生活との結びつき、

ひまわり学級の研究授業では自分たちで育てた愛着のある野菜という具体物を使うことで、更に意欲が高まり集中して学習に取り組むことができた。

自立活動の関連項目としては、「体の動き（4）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること」「環境の把握（2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること」が挙げられる。

野菜を使った学習では、数を数えて計算をする、長さを測る、重さを測るなど、日常を関連させた学習を行った。



##### ④ヒントカード等

学習内容の理解が難しい児童には適宜ヒントカードなどを使い個別最適な学びの充実を図った。児童は意欲が向上し、達成感を得られた。また、高学年の授業ではスライドを用い、わからない児童がコメント機能を使って質問をし、協働的に課題解決を図る活動を取り入れた。

- (2) 自分の考えを表現し、互いの考えを活かす方法  
事前にアンケートを取り、グルーピングを行い  
課題を明確にした上で話し合いを行いながら課題解  
決を目指した。

Googleスライドを用意し他の班の考えを可視化  
し学び合いをグループから全体へと広げた。また、  
スライドには考えについて、根拠のある説明を載  
せることとした。



- (3) 実態に応じた基礎基本の定着

授業開始後3分程度を使い、毎時間基本問題に取り組んだ。同じ問題を使うことで  
日を追うごとに計算が早くなり、児童自身が成長を実感できた。

- (4) 2つの研究部の活動

#### 学習研究部

- ・指導案の型の検討
- ・指導形態や支援方法の検討  
⇒計算(1.2年) 図形(3.4.6年)  
覚えているかな・割合(5年)
- ・コース別学習の進め方の研究  
⇒学習選択の方法や工夫
- ・振り返りの視点や評価の研究
- ・グループやペア学習の活用

#### ICT活用・環境部

- ・ICT活用の推進  
(レディネスを高めるためのフォー  
ームの活用)
- ・デジタル教材の検討、活用
- ・データの保管方法
- ・板書・言語環境の整備
- ・算数コーナーの活用
- ・研究授業の掲示

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・どの学年でも意欲的に学ぶ児童の姿が見られた。
- ・協議会で子どものよい姿に注目し、話し合いを行えた。
- ・指導案検討会では職員全体で協議しながら授業を作れた。
- ・お互いの授業を見合い、新たな授業方法や他学年の授業についても考えられた。
- ・意欲を高める部分で、各学年効果的に授業づくりが行えた。(学習研究部)
- ・自分で学習スタイルを選ぶ授業に取り組めた。(学習研究部)
- ・板書の掲示物を統一できた。(まとめの㊦や振り返りの㊧) (ICT活用・環境部)
- ・フォームを活用してレディネスを高められた。(ICT活用・環境部)
- ・デジタルドリル(ドリルプラネット)の自動採点機能を活用できた。(ICT活用・環境部)

### (2) 課題

- ・習熟度別に分けた場合、それぞれの習熟度に合わせて意欲の向上を図りたい。
- ・児童の実態に応じて手立てが異なるため、学校全体で1つの目標に向かって取り組んでいる雰囲気を感じられなかった。
- ・持続可能な手立てを明確にし、実践していけるとよい。
- ・デジタルドリル(ドリルプラネット)の活用状況が教員によって大きく異なるため研修が必要である。(ICT活用・環境部)

研究主題

## 「G I G Aスクール環境下における

### 川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善」

川越市立大東中学校

川越市立大東東小学校

#### 研究のポイント

- 令和6年度リーディングDXスクール事業の指定校の取り組みである。
- 川越市立小・中学校に配備された学習者用コンピュータ（Chromebook）を用いた授業実践である。
- 川越市小・中学生学力向上プランに基づいて行った授業について小学校5事例、中学校5事例をまとめている。

#### 1 研究の概要

##### (1) 研究のねらい

川越市小・中学生学力向上プランは、令和5年度より理解・共有、定着、深化のスパイラルという新たな3年間のサイクルに入っている。川越市小・中学生学力向上プランで目指す児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現にはICTの活用が欠かせない。そこで、令和5年度リーディングDXスクール事業の実践結果を受け、G I G Aスクール環境下における川越市小・中学生学力向上プランを用いたさらなる授業改善を図り、市内小・中学校に周知する事例を開発することをねらいとし、事業実践を行った。

##### (2) 研究主題設定理由

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する観点から、令和の時代の文房具としての1人1台端末とクラウド環境を毎日、高い頻度で活用することが求められている。また、本市では「川越市小・中学生学力向上プラン」に基づいて授業を行っている。そこで、「川越市小・中学生学力向上プラン」に則った授業の中で学習者用コンピュータ（Chromebook）を効果的に活用する授業実践事例を作成することで他の市立小・中学校でも活用できる事例となると考え、本研究主題を設定した。

#### 2 研究の内容

以下の点に基づき、実践事例を創出する。

- ・ G I G Aスクール環境の活用
- ・ G I G A×情報活用能力
- ・ G I G A×指導の工夫・改善

### 3 実践事例

#### (1) G I G Aスクール環境の活用

##### ① 【大東東小学校】第1学年学級活動における実践実践

Googleフォームのアンケート機能を活用したり、撮影した動画を見せたりして、どのようなちくちく言葉を普段使っているかを知り、自分たちの言葉遣いの実態を振り返った。授業の中で、言葉遣いについてのアンケートを授業前と授業の導入に2回取ることで、自分たちの言葉遣いに対する認識のずれを感じさせることができた。ちくちくことばを改善するために、Googleスプレッドシートを活用して言いかえの言葉を考えさせた。各班の考えを入力することで、他の班と考えを共有し、他者理解が深まった。



##### ② 【大東東小学校】Googleマップを活用した授業実践

Googleマップを活用し、学校周辺の施設やお店などを調べた。実際に町探検に行く前に、Googleマップ上で町探検することで、町探検に対する興味・関心や意欲を高めることができた。一人一人が気になる場所（3カ所）をスクリーンキャプチャし、Googleスライド（以下、スライドという。）に画像を貼り付け、短い文章で気になった理由をまとめた。スライドはいつでも他者参照することができるようにした。児童が情報の真偽を正しく判断することが難しいので、WEBサイト等にアップされている画像は使用しないことを伝えた。



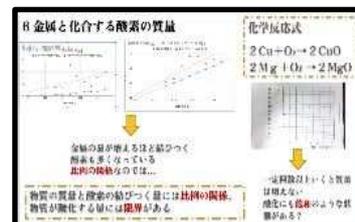
##### ③ 【大東中学校】進路指導

面接の様子を動画で撮影することで自身を客観的に確認し、個別の課題と向き合うことができた。また、上手な生徒の様子を動画を通して見ることで、自分と比較して考えることができた。また、動画という媒体を使うことで、後で見返すことや成長の段階を追うことができたようにした。



##### ④ 【大東中学校】第2学年理科の授業実践

白紙共有されたスライドに実験結果を基に自分で考えたことをまとめた。個人でまとめていきながら、共有されたファイルを基に、班で話し合ったり、他者のスライドを参考にしたりすることで、自分の考えを高めた。



#### (2) G I G A×情報活用能力

##### ① 【大東東小学校】5年生社会科における自由進度学習

5年生社会科で、単元内の自由進度学習を展開した。児童は、フォルダを共有し他者参照ができる状態で、スライドにその日の課題について調べてわかったことをまとめた。事前に単元計画表・ルーブリックを作成し、授業の導入で、自分が目指すレベルを意識させることで、



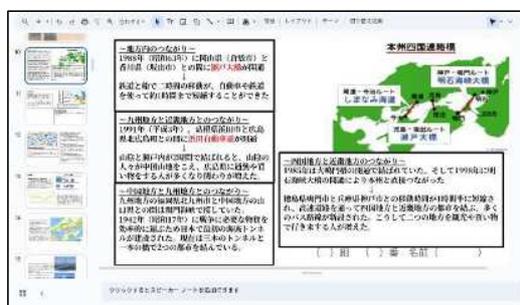
それぞれの児童が無理なく、主体的に学習に取り組むことができた。単元計画表を

予め提示することで、単元のゴールを把握でき、児童は見通しをもって学習することができた。また、学習方法を児童に選択させ、個人・友達・グループ・教師等の誰と学ぶか、教科書・インターネット・友達と話し合う等どんな手段で学ぶかについても、児童に選ばせた。さらに、毎時間の最後に、「学び方の振り返りシート」を活用して、自分のその時間の学び方について振り返らせた。その結果、児童の学習に対する考え方に変化が出てきた。また、自分のペースで学習できるため、学習したいという意欲付けにもつながった。

13	友通と本屋が一番多い店を買いました。	友通と本屋が一番多い店を買いました。	友通と本屋が一番多い店を買いました。
14	友通と本屋を買いました。水産物のランキングを買いました。	昔年紙や洋食の教科書を買って深く学びました。みずきさんとアリスさんとやりました。	今日は1人でやりました。部活や帰りについて詳しく学びました。
15	友通と本屋の少し買いました。	友通と協力して買えることができました。	一日に比べて友通と色を買われるようになった。
16	先生と一緒にいっぱい買ってきた。	友通と協力してできた。	今日は友通と一緒にいっぱい買ってきました。

## ② 【大東中学校】中学校 社会「中国・四国地方」

Googleドキュメントで作成したルーブリックと学習計画をGoogleClassroomを通じて生徒に配布した。学習計画に示された学習課題に対して、生徒が自らの考えを教科書や資料集、インターネット上の情報等の資料を収集したうえで、スライドにまとめた。学級全体で、それぞれの生徒が作成したスライドを基に共通点や相違点について話し合ったことを踏まえて、学習課題である中国・四国地方の交通・通信網の役割についてまとめた。その結果、生徒は学習内容について一人一人が考えをもつことができるようになり、単元を貫く学習課題に対しても、根拠をもって自らの答えを示していた。これは情報活用能力における情報の収集、分析、表現を繰り返したことの成果だと考えられる。



## (3) GIGA×指導の工夫・改善

### ① 【大東東小学校】「跳び箱」におけるタイムシフトカメラの活用

跳び箱の練習をする場に学習者用コンピュータ（Chromebook）を2台設置し、1台目は、手本の提示装置、達成度把握のための装置として、2台目は、タイムシフトカメラを活用し試技を可視化する装置として利用した。タイムシフトカメラは、自分の試技の直後に振り返ることができるので、自分の課題が明確になり、次の試技に活かすことができた。Googleスプレッドシートで作成したレベルアップシートに振り返りを入力するとともに、自身の試技を撮影した動画を貼り付け、教師へ提出した。次の試技で何を意識すればよいかを明確にして取り組むことができた。また、レベルアップシートでは、最初と比べてよくなった点、今後目指す改善点や自分の学びの過程が明確になり、児童のメタ認知能力の向上を図れた。



日	試技	ふとんはし	慣習	足がかり	ひざかけがわり	空中飛翔	ひざかけの振り	空中上り
1	試技1	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
2	試技2	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
3	試技3	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
4	試技4	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
5	試技5	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
6	試技6	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
7	試技7	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
8	試技8	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
9	試技9	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
10	試技10	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
11	試技11	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
12	試技12	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
13	試技13	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
14	試技14	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
15	試技15	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
16	試技16	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
17	試技17	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
18	試技18	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
19	試技19	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成
20	試技20	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成

② 【大東中学校】 数学における授業のリアルタイム状況報告&振り返り

数学で課題に取り組む際に、生徒一人一人が現在の進捗状況を申告した。教員は生徒の申告に合わせて支援を行った。授業のまとめ後には、生徒一人一人が学習内容に対する理解度と振り返りを記入した。教員は生徒の状況に応じて次時の指導内容を検討した。

氏名	進捗状況	理解度	振り返り
山田 太郎	問題1を解いた	理解している	問題2の解き方を覚えた
佐藤 花子	問題2を解いた	理解している	問題1の解き方を覚えた
鈴木 一郎	問題3を解いた	理解している	問題2の解き方を覚えた
田中 美咲	問題4を解いた	理解している	問題3の解き方を覚えた
高橋 健太	問題5を解いた	理解している	問題4の解き方を覚えた

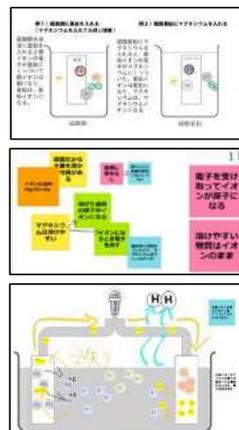
③ 【大東東小学校】 図画工作科におけるスライドを活用した鑑賞の学習

自分の作品の写真を学習者用コンピュータ（Chromebook）で撮影し、スライド上に写真と合わせて工夫したところや難しかったところなどを入力した。スライド上で、友達作品を見合い、良かったところや面白いと思ったところなどをコメントし合った。紙での交流より簡単に多くの児童のコメントを入れることができた。また自分の作品と友達作品との違いを見つけ、コメントすることで、自分の見方や感じ方を広げることができた。振り返りには、スプレッドシートを活用した。自己評価力が高まり、より深い学びにつながった。毎時間の振り返りでは、自分の作品を写真撮影することで、自分たちの成長を視覚的に確認することができ、次のステップに向けた考察や改善策を見つける力を付けることができた。



④ 【大東中学校】 中学校3年生理科の授業実践（水溶液とイオン）

まずは実験で銅、マグネシウム、亜鉛の陽イオンの水溶液と、それぞれの金属片の反応を調べた。実験後に、実験結果を基に考察した。その際、学習者用コンピュータ（Chromebook）上で原子・イオン・電子の粒を動かしながら考え、表現した。作成したファイルをもとにグループで実験に対する考察について話し合い、ディスカッションにより仕組みを理解するとともに、論理的に説明した。最後にスライドを用いて発表した際には、スライド上に表現したイオンを動かして書き入れながらプレゼンテーションを行った。



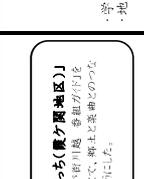
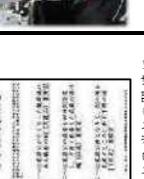
4 研究の成果と課題

(1) 成果

川越市立小・中学校におけるGIGAスクール環境下で学習者用コンピュータ（Chromebook）を使用し、川越市小・中学生学力向上プランに基づいた授業を行うことで、児童生徒が自分の考えを表明し、他者と考えの交流を行うことで、協働的な学びへとよりつなげることができた。

(2) 課題

学習者用コンピュータ（Chromebook）の活用について苦手意識をもつ職員もいることから使用方法や活用事例の継続的な啓発が必要である。

川越市立霞ヶ関東小学校		川越市立霞ヶ関東中学校							
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年						
第5学年	第6学年	第1学年	第2学年						
第3学年	第4学年	第5学年	第6学年						
<b>学校</b> <b>学年</b> <b>教科・領域</b> <b>単元名</b> <b>学習内容</b>	<b>図工</b> <b>お話の絵をかこう</b>  ・霞ヶ関地区の「たけぼら」のお話を聞き、想像した「たけぼら」の姿を描き、地域に伝承する神話を知った。	<b>国語</b> <b>むかしからつたわる言い方</b>  ・郷土カルタで遊ぶ。 ・郷土カルタについて知る。	<b>国語</b> <b>わたしの町のいじり</b>  ・総合的な学習と連携し、発表する内容をグループから個人に下ろし文章化し、ポスターを作成。	<b>社会</b> <b>ゴミ調査隊</b>  ・「ゴミ調査隊」の活動の様子を写真や動画で紹介し、地域に伝承する神話を紹介した。	<b>音楽</b> <b>日本の音楽に親しもう</b>  ・総合的な学習と連携し、日本の音楽について知る。	<b>社会</b> <b>博物館見学の事前学習</b>  ・町域にゆかりのある著名な人物（大田道隆）などの先哲について、事前に学習した資料から学ぶ。	<b>理科</b> <b>川越の地層について</b>  ・川越の歴史や特徴を学ぶ。 ・川越の地層や特徴を学ぶ。 ・川越の歴史や特徴を学ぶ。	<b>理科</b> <b>関東(川越)の気象現象</b>  ・日本の気象現象、関東地区の気象現象、埼玉(川越)の気象現象。	<b>理科</b> <b>川越のハザードマップ</b>  ・川越の被害予測を学ぶ。 ・地域の震源、水害の災害地図から学ぶ。
<b>教科</b> <b>単元名</b> <b>学習内容</b>	<b>生活</b> <b>公園探検しよう/音遊び</b>  ・水の上公園で春や夏、秋、冬を季節ごとに音遊びして、音遊びの楽しさを伝える。	<b>生活・図工</b> <b>野菜を育てよう/おひきの</b>  ・おひきの育て方、収穫する。	<b>社会</b> <b>火事から人びとを守る</b>  ・霞ヶ関消防署を見学し、火事から人びとを守るための取り組みを知る。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>技術・家庭科</b> <b>食育</b>  ・地域の食材を活用し、食育の授業を行う。	<b>技術・家庭科</b> <b>さつまいもの栽培</b>  ・地域の食材を活用し、食育の授業を行う。	<b>技術・家庭科</b> <b>幼児教育</b>  ・地域の施設を活用し、幼児教育を行う。
<b>教科</b> <b>単元名</b> <b>学習内容</b>	<b>音楽</b> <b>今月の歌(11～12月)</b>  ・12月の音楽朝会で、全校で唱う。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。	<b>音楽</b> <b>わたしの住む町が、わたしの力を伝える</b>  ・わたしの住む町が、わたしの力を伝える。
<b>総合的な学習の時間</b> <b>単元名</b> <b>学習内容</b>	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>総合的な学習の時間</b> <b>総合的な学習の時間</b>  ・総合的な学習の時間を利用して、地域の歴史や文化について学ぶ。
<b>特別活動</b> <b>単元名</b> <b>学習内容</b>	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。	<b>特別活動</b> <b>特別活動</b>  ・特別活動として、地域の歴史や文化について学ぶ。

# 川越市立教育センター

令和7年3月発行

〒350-0001

埼玉県川越市大字古谷上6083-10

TEL (049) 235-7591

FAX (049) 230-1023



川越市マスコットキャラクター  
ときも